

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

高千穂保健所 衛生環境課

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

- ・SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染
- ・主に発熱、消化器症状、リンパ節腫脹など
- ・致死率は5～30%程度
→コロナウイルス感染症で、最も致死率の高かった第1波で5.34%



フタトゲチマダニ

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

- 宮崎県での報告数が、全国で最も多い
- 西臼杵地区での発生状況

地域別発生数(患者居住地)(2013年3月の届出開始から2024年6月30日まで)

地域 (保健所別)	宮崎市・ 中央	日南	都城	小林	高鍋	日向	延岡・ 高千穂	県外	合計
発生数	31	21	5	1	19	20	15	4	116

- ・令和5年度:2件(2人):西臼杵地域のみ

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●感染対策予防

- ・「マダニに咬まれない」ようにすることが最も重要

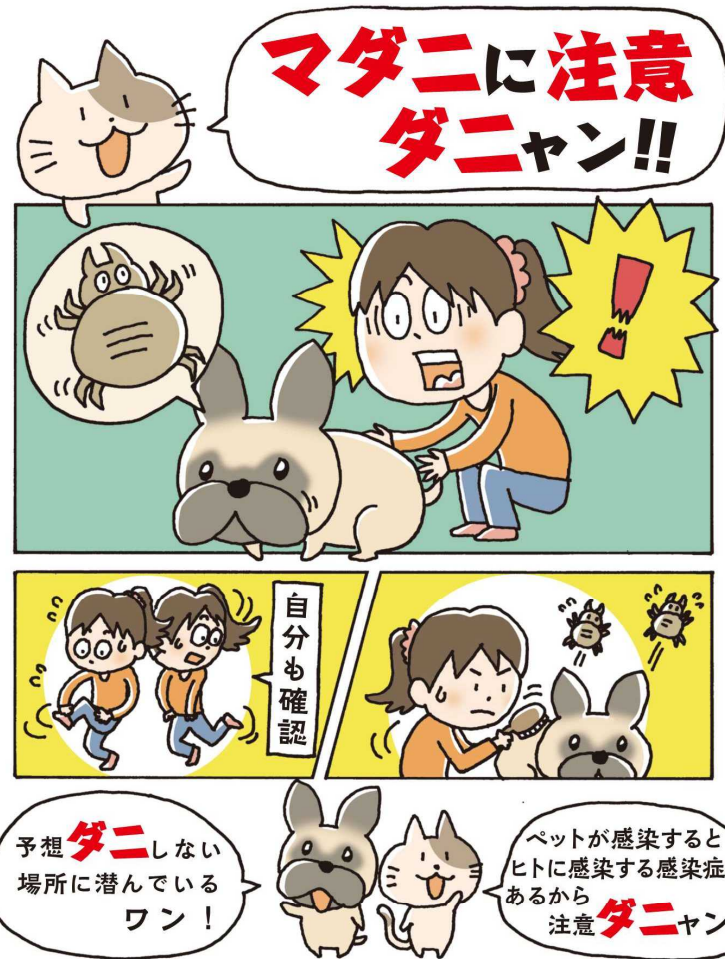
犬や猫からのルートを想定すると、

- ・散歩中に草むらや藪などで、犬や猫に噛み付く
 - 犬・猫の体表から落ちたダニが人に咬みつく、またはSFTSに感染した犬・猫の体液による感染 など
 - 人との濃厚接触（口移しでのエサやり、布団に入れて一緒に寝るなど）の機会

ペットのダニ対策

- ダニ駆除剤の使用等について獣医師に相談
- ペットが外から帰宅したら、ダニがついていないか確認
- ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院へ
※ペットを介した、庭や屋内にダニが持ち込まれることがあります

厚生労働省ポスター



【ダニが媒介する感染症】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・ダニ媒介脳炎・日本紅斑熱・つつが虫病・ライム病 など

ダニに刺されないポイント

- 肌の露出を少なくする
- 明るい色の服を着る
- 虫除け剤を使用する

野外活動時は入浴し、ダニに刺されていないかを確認しましょう。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、股の下、顔部(髪の毛の中)などに注意しましょう。

ダニに刺されたときの対処法

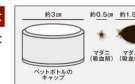
- 無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科など)で処置(ダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。
- ダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

ペットのダニ対策

- ダニ駆除剤の使用等について獣医師に相談。
 - ペットが外から帰宅したらダニがついていないか確認。
 - ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院へ。
- ※ペットを介して、庭や屋内にダニが持ち込まれることがあります。

受診時に伝えること

- ①ダニに刺されたこと
- ②野外活動の日付
- ③場所
- ④発症前の行動



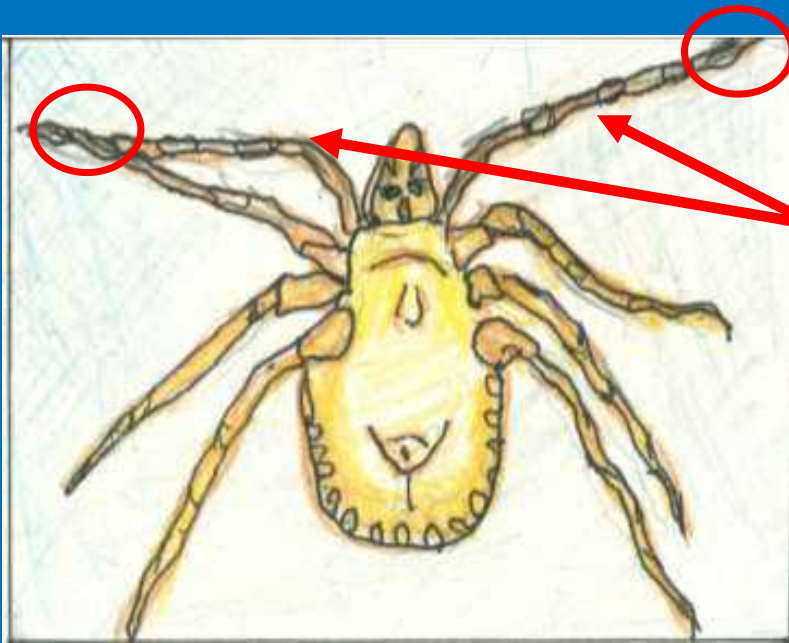
ダニ媒介感染症 厚生労働省

※各地域のダニ媒介感染症の状況については自治体や保健所から情報を得てください。



「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●マ(真)ダニはどうやって人や動物を認識し、食らいつく？



第1脚

ダニ
腹面

第1脚の先端にある感覚器官
→動物から発せられる熱、
二酸化炭素やその他の臭気
を感じるセンサーの役割を
はたしている

その他に、光と影を認識して行動を変える
多くは待ち伏せして寄生するが、中には自ら歩き回って探し回るものもいる

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

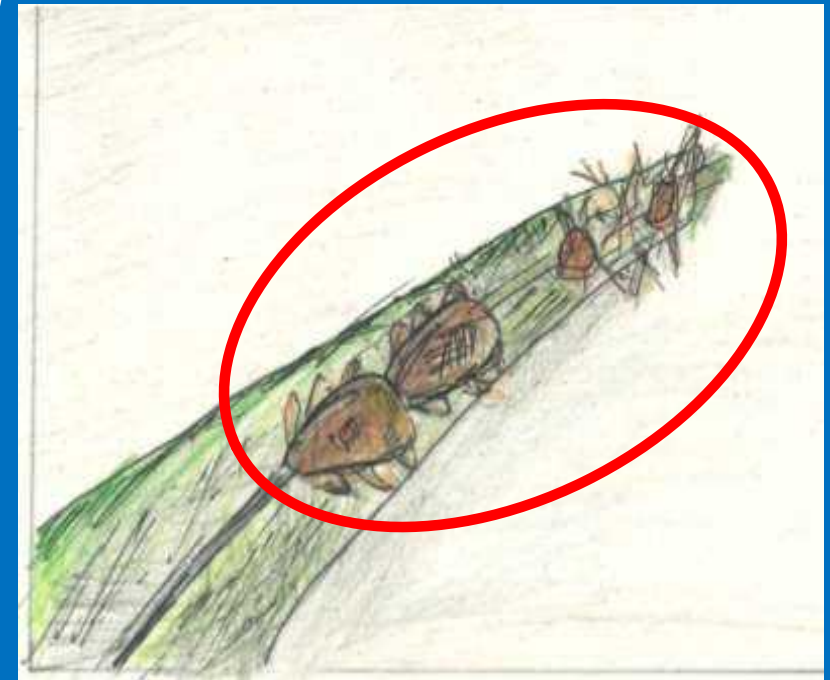
- マダニの住処（すみか）と食いつき方
多くのマダニは山林に生息



動物が接触した際に、体表に乗り移る



直ぐに吸血せず、良い場所を求めて
体表を徘徊 → 吸血開始



葉の裏側先端で待機する雄成虫と幼虫

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●吸血①

- ・「マダニが木の上から落ちてきて、人の頭に寄生する」
 - 迷信：日本のマダニは樹上には、生息していません！
 - 下草で待ち伏せしてズボンに付着したものが、体を這って頭に移動してから食いついている
- ・マダニの種類によって〈好み〉の食いつき場所があります
 - 頭部好き、下半身の湿った部分好き（股間、肛門など）など
 - 痛みも痒みもないのでなかなか気付かないことも、



笹の葉先の幼虫

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●吸血②

- ・マダニの成長ステージによって、吸血期間が異なる

卵→幼虫→若虫→成虫



オス

メス

幼虫で3～6日、若虫で3～10日、雌成虫で6～12日間

→マダニの種類、食いついた動物の種類、温度条件で

異なるが、少なくとも数日間は食いついている

- ・飽血→皮膚から脱落→落ち葉・岩の割れ目・巣穴などで産卵

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●高千穂保健所に保護される犬や猫たち



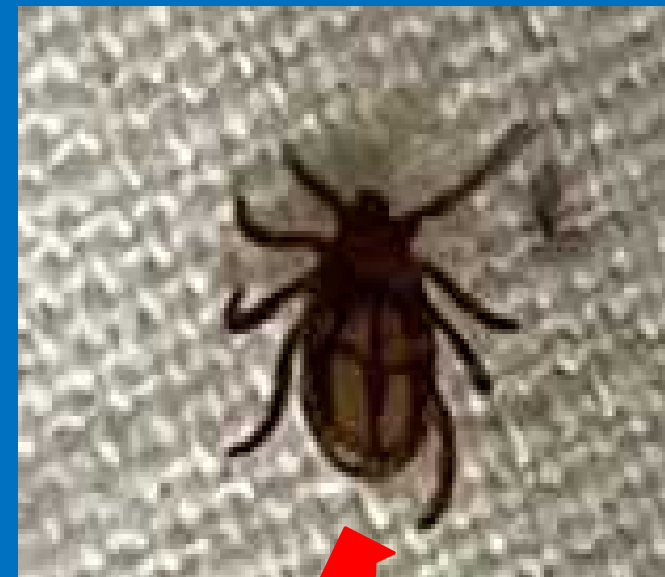
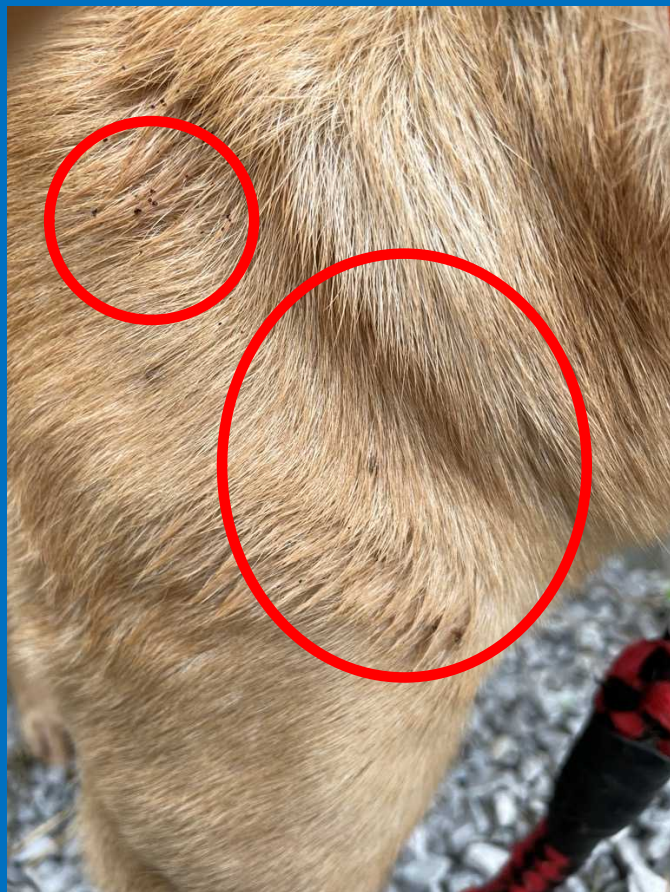
- ・犬は山中で保護される「猟犬」と思われるものが多数

- ・衰弱猫は民家に近い藪や草むらでの保護が多い



まずはノミ・ダニの駆除を実施！

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」



「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」



保護翌日
(駆除剤投与翌日)

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●犬や猫からの感染予防のために

①ペットが外から帰宅したら、ブラッシングなど行う

→ダニがいないかの確認も

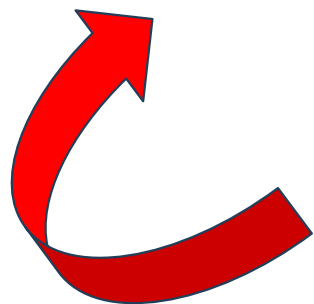
②日頃から獣医師に相談して、マダニの駆除剤の使用を

→ダニが皮膚に食い込んでいる場合は、動物病院へ

③過剰なふれあいは控えましょう

→口移しでのエサやり、動物を布団に入れて寝るなど

路上で死亡している動物（犬・猫、野生動物）を回収する職員への注意喚起が重要



2022年(令和4年)2月25日 宮崎日日新聞

死亡した猫を素手で触った

↓
SFTSは、感染した動物の血液や体液を介して人に感染する可能性があります

体調不良の猫に噛まれた人がSFTSに感染した事例が報告されている
→体調不良の猫を診療する獣医師への感染も大きな問題となっている

2年(令和4年)2月25日 金曜日 宮崎日日新聞

県感染症対策室は24日、日南市の70代女性と宮崎市の80代女性が、マダニが媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を発症し、このうち70代女性が死亡したと発表した。県内での感染確認は今年に入って初めて。80代女性は死んだ地域猫の血液に素手で触れており、その際にうつった可能性が高いという。

同室などによると、70代女性は今月初旬から発熱などの症状があり、入院して治療を受けていたが、同月中旬に死亡した。その後、感染が判明。マダニにかまれた痕はなく、感染経路は不明。80代女性は今月初旬に発症し、現在は医療機関に入

マダニ感染症
県内2人発症1人死亡
1人は猫の血液からか

県中で快方に向かっている。1月下旬、死んだ地域猫を葬った際、血液に触れたという。宮崎市保健所は

「SFTSは、感染した動物の血液や体液を介して人にうつるリスクがあるため、死んだ動物や体調不良の動物には素手で触らないようにしてほしい」と呼び掛けている。

(岩切廉一朗)

「SFTS感染予防～動物管理の視点から～」

●考えてみられませんか？「猫の完全屋内飼育」 ～「かわいそう」は誤解です～



- ・SFTSは猫に強い病原性を示し、致死率は約60%
- ・室内がテリトリーになれば、安心して暮らせます

→猫同士のケンカや感染症、交通事故のリスクが減ります
→ストレスや運動不足解消のために、ひとり遊びや運動ができる工夫と、「隠れる場所」の確保を



猫は室内で飼おう！

室内飼育のメリット

- ① 交通事故にあう危険がない
- ② 感染症にかかる危険が少ない
- ③ ご近所トラブルが少なくなる
- ④ 虐待などの被害にあうことがない

室内飼育のデメリット

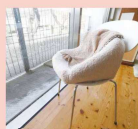
猫が退屈しやすい

- ▶ 環境を整え飼い主がコミュニケーションをとることで、猫は室内飼育でも十分に幸せに暮らせます!!

猫に快適な室内環境

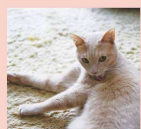
室内の安全対策

- 脱走しないように、窓や扉の戸締りを徹底しましょう。
- 口にすると危険なものを片づけましょう。(電気コード、観葉植物など)



外を眺める場所

窓の外を見るという刺激が、寒らかな布の上、暖かな場所を与えられ、「退屈」を感じにくくなります。



くつろげる場所

寒らかな布の上、暖かな場所



隠れ場所

猫は本来臆病な動物です。驚いたときに猫が逃げ込めるスペースを用意しましょう。



トイレ

猫は非常にきれい好きで、トイレにこだわりがあります。



上下運動

上下運動や動き回る空間があると、猫は自分でエネルギーを発散できるため、問題行動の予防になります。



入り組んだ動き回る空間



爪とぎ

猫は爪とぎの習性があります。家具や柱などで爪を研がないように、専用のものを用意しましょう。



ケージ

子猫のうちから習慣づけて上手に使うとよいでしょう。災害時や入院時にも役に立ちます。

飼い主とのコミュニケーション

室内飼育されている猫の場合は他の社会や動物との接点がないので、その分飼い主が毎日コミュニケーションを回り、かまってやる必要があります。話しかけたり、なでたり、おもちゃを使って遊んだりする時間を作りましょう。



環境省

ちば



お外は危険がいっぱいニヤ!

猫は室内で飼いましょう

飼い猫を外で自由にさせると、ケガ、病気やご近所トラブルなどの原因になってしまいます。

千葉県健康福祉部衛生指導課 ☎043-223-2642 平成30年3月発行

ねこの飼い主の皆様へ



猫に癒されている人がいる一方で、困っている人もいます。猫の習性や能力を正しく理解しながら、人と良好な関係を保ち、共存できるように管理することが飼い主としての社会的責務といえます。周りの人に迷惑が掛からないよう適正な飼育に努めてください。

猫は室内で飼いましょう

令和2年4月から水戸市では条例により、猫は屋内で飼うことが定められました。猫を飼っている方にとって、猫は大切な家族であると思います。愛猫が安心して安全に生活し、近所の人に迷惑を掛けないように室内飼いをしましょう。

※水戸市動物の愛護及び管理に関する条例

●室内飼いの利点は飼い主にも愛猫にもあります

- ・糞尿や鳴き声によるご近所トラブルが防げる
- ・交通事故やケガによるケガ・感染症を防げる
- ・行方不明になる心配がない

…特に去勢をしていないオス猫は、他のオス猫とのケンカで大けがを負って動けなくなったり、ケンカに負けてその地域を追い出され、家に帰れなくなることがあります

●自由に外に出さないでほしい

猫は環境を整えれば、屋内だけで心身ともに健康に過ごすことができる生き物です。

猫の習性に合わせた部屋

- ・トイレや爪とぎの設置
- ・上下運動ができる場所(キャットタワー等)
- ・不妊去勢手術による発情ストレスの削減など

●やむを得ず屋外で飼う場合は、次の措置をとる必要があります。

- ☐ 猫が繁殖して増えないよう不妊去勢手術をすること
- ☐ 飼い主がわかるようにマイクロチップや首輪(お札)を装着すること



お問い合わせ

水戸市動物愛護センター

電話番号

☎029-350-3800

受付時間

火～土曜日 8:30～17:15

水戸市河原田町 999

(日・月・夜は休み)

千葉県

水戸市